

5. 魚病対策事業

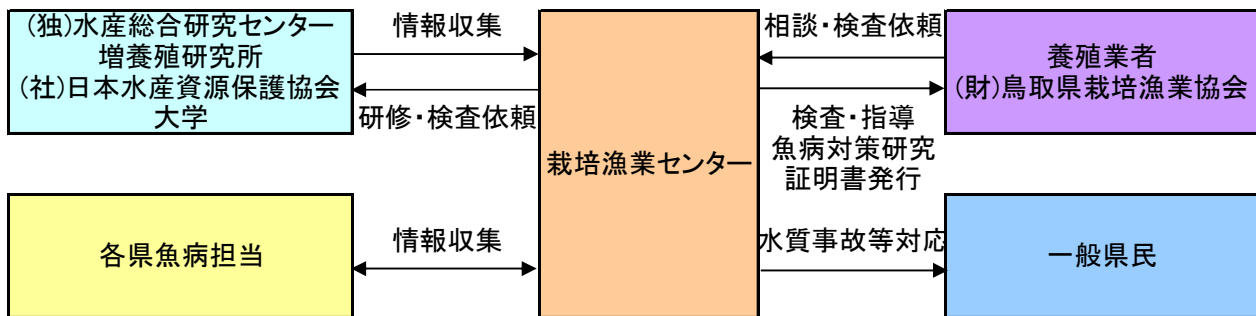
担 当：山本健也・松田成史（養殖・漁場環境室）

実施期間：平成 19 年度～（平成 26 年度予算額：1, 939 千円 一部国 1/2）

目的・意義・目標設定：

- ① 各種会議等により，魚病に関する情報交換や情報収集する。
- ② 持続的養殖生産確保法，薬事法，食品衛生法などにに基づき検査等行う。
- ③ 巡回指導や魚病検査を行い，魚病被害を低減させる。
- ④ 疾病の検査証明書を発行する。
- ⑤ 水産物の生産過程で問題となっている疾病の対策を行う。

事業展開フロー



取り組みの成果

1) 目的

持続的養殖生産確保法に基づき，魚病の発生予防・まん延防止を目的とする。また，県内で問題となっている魚病の原因究明および対策を講じることを目的とする。

2) 方法

①情報収集

魚病に関する全国会議や地方ブロック会議等へ参加し，魚病に関する情報収集を行う。

②養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

②- 1 養殖場巡回指導・防疫指導

県内養殖業者の巡回(生産状況，現場確認)，相談や講習会を通じて，疾病発生に関する情報提供，注意喚起を行い，適正なワクチン，薬剤使用を指導する。

②- 2 魚病・保菌検査

養殖場や天然域で斃死あるいは衰弱した水産生物について魚病検査を行い，対処方法を指導する。コイヘルペスウイルス病が疑われる場合，これの一次診断を実施する。また，必要に応じて保菌検査を実施する。

②- 3 検査証明書・水産用ワクチン使用指導書の発行

鳥取県栽培漁業センター手数料条例に従い，活魚取引上必要な検査証明書を発行する。また，水産用ワクチンの投与を希望する養殖場で事前調査を行い，使用指導書を発行する。

②- 4 薬剤残留検査

薬剤を使用した養殖業者の出荷予定魚に使用薬剤が残留していないか検査する。

3) 結果

①情報収集

表 1 に平成 26 年度に参加した会議等を示す。会議などを通じて魚病情報の収集や情報交換が出来た。

II. H24 成果 10 魚病対策事業

表1 平成26年度に参加した会議等

日付	会議名	場所
平成26年9月2～3日	第28回近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会	山口県山口市
平成26年10月30～31日	第16回西部日本海ブロック魚類防疫対策協議会	京都府宮津市
平成26年12月4～5日	魚病症例研究会	三重県伊勢市
平成27年2月6日	クドア研究会	東京都千代田区
平成27年2月27日	中国5県水産系広域連携担当者会議(種苗生産技術グループ)	広島県広島市
平成27年3月5日	養殖衛生管理技術者養成特別コース	東京都中央区
平成27年3月6日	全国養殖衛生管理推進会議	東京都千代田区

②養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

②-1 養殖場巡回指導・防疫指導

平成26年4月から平成27年3月末日までの魚種別巡回指導件数を図1に示した。巡回指導は延べ45件行った。今年度はアユカケ、ホンモロコ、ギンザケ、キジハタ、ナマズの新規着業者を中心に巡回指導を行った。

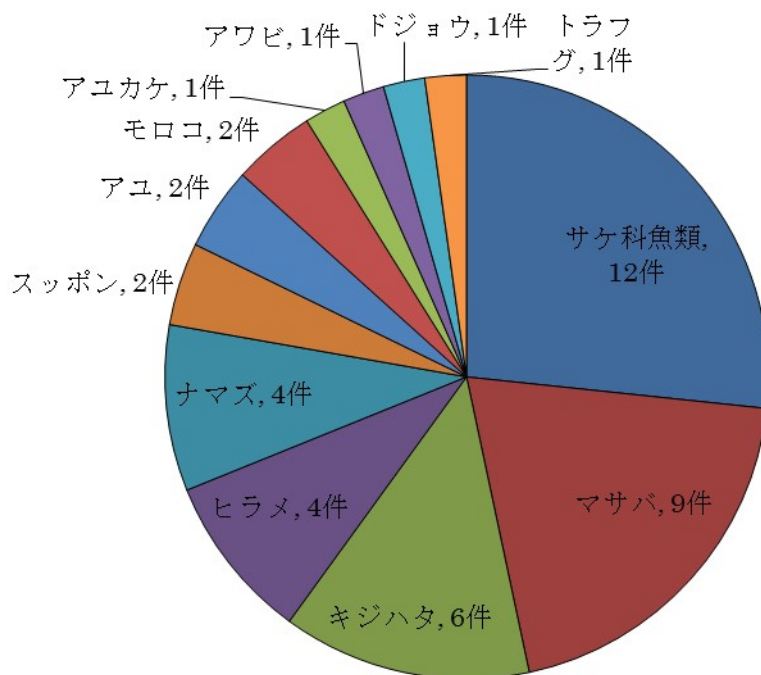


図1 平成26年度魚種別延べ巡回指導件数

②-2 魚病・保菌検査

表2に平成26年度魚病診断状況を示した。サケ科魚類の検査が多かった。

平成26年度、コイヘルペスウイルス病の一次診断は6件実施した。このうち、陽性は1件だった。

この他、クロアワビにおいてキセノハリオチスの保菌検査を実施した。クロアワビ種苗150個体、クロアワビ親貝136個体を検査した結果、全て陰性であった。

また、ワクチン指導書の発行にともなう健康診断を2件実施した。

H26 成果 5 魚病対策事業

表2 平成26年度魚病診断状況

内水面		H26													合計
魚種	病名	区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アユ	トリコジナ症	養殖				1									1
	冷水病	養殖					2								2
アユ種苗	ビブリオ	種苗生産										1			1
ギンザケ	冷水病	養殖			1										1
	不明(エサ食い低下)	養殖				1									1
	EIBS	養殖					1								1
ニジマス	IHN	養殖											1		1
ヤマメ	白点病	養殖					1								1
	白点病+BGD	養殖								1					1
サクラマス	不明(えら病?)	養殖											1		1
イワナ	キロドネラ症	養殖				1									1
錦鯉	CEV	民家											1		1
マゴイ	エロモナス症	民家				1									1
															14
海面		H26													合計
魚種	病名	区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アユカケ	イクチオボド症	飼育試験	1			1									2
キジハタ	酸欠	養殖							1						1
ズワイガニ	黒色異物	天然											1		1
ヒラメ	スクーチカ症	養殖	1												1
	トリコジナ症	養殖												1	1
	ネオヘテロボツリウム症	養殖						1							1
マアジ	クドア	天然	1												1
マサバ	ビブリオ	飼育試験					1								1
	シュードモナス症	養殖										1			1
マサバ種苗	不明(VNN陰性)	種苗生産		1											1
															11

②- 3 検査証明書・水産用ワクチン使用指導書の発行

コイヘルペスウイルス病について2件、春コイウイルス血症について2件検査証明書を発行した。また、ワクチン使用指導書の発行が2件あった。

②- 4 薬剤残留検査

薬剤の使用実績調査から、該当するものが無かったため、実施していない。

4) 考察(成果)

近年、ギンザケをはじめとするサケ科魚類の養殖生産量が増加している。これに伴いサケ科魚類の魚病検査件数も増加している。このような状況の中で魚病による被害軽減のため、サケ科魚類をはじめとする魚病関連情報の収集をより広く行う必要性が生じている。

5) 残された問題点及び課題

養殖生産量が増加しているサケ科魚類について、魚病関連情報の収集に努める必要がある。